

すまいる通信

拠点校 稲城市立稲城第二小学校
校長 濱田 伸
巡回校 稲城市立 平尾小学校
校長 黒川 雅仁

新型コロナウイルスが猛威を振るう中、感染拡大防止のためのご家庭でのご理解とご協力に心より感謝いたします。子供たちに休校期間中の過ごし方について聞くと、「ずっと勉強してた!」「本をたくさん読んだ!」「毎日ランニングをした!」など、それぞれの過ごし方を元気に伝えてくれました。さて、今回のすまいる通信では、ご家庭でも取り組みそうな活動をピックアップし、いくつかご紹介いたします。

【お話ジェンガ】

この活動は通常のジェンガに番号を振り、「抜いたジェンガの番号に沿って話をする。」という活動です。

【用意するもの】

- ・ジェンガ ・お題用紙

【やり方】

- ① ジェンガ 1 つ 1 つに番号を振ります。
(販売している物には、すでに番号が振ってあるものもあります。シールでもよいです。)
- ② 番号に対応する「お題」を考えます。
(例：片足で10秒立つなど。)
- ③ 通常と同じルールでゲームを行います。
- ④ 引いたジェンガに合わせて「お題」に取り組みます。
- ⑤ 「ジェンガを倒す。」または「引けるものが無い。」場合は終了です。

お題は季節やイベントによって変えることができ、誰でも簡単に取り組むことができます。お題をつけることで自分のことについて話したり、ゲーム感覚で取り組んだりすることができます。

※二小HPにも「お題」を掲載しました。ご家庭でプリントアウトし、ご利用ください。

【たぬきゲーム】

この活動では、「話をよく聞きとり、頭の中で処理する力」が身に付きます。

【用意するもの】

- ・ペン ・紙

【やり方】

- ① 出題者は簡単な単語を一つ思い浮かべます。
(例：さかな)
- ② 文字と文字の間に『た』を入れます。
(例：さたかたな)
- ③ 出題者は②を読み、問題を出します。
- ④ 解答者は答えを紙に書きます。
- ⑤ 出題者が答え合わせをして終了です。

例。「かたたたき→かき」のように『た』の数を変えたり、「たけやぶやけた→たやぶやた」のように、抜く文字を変えたりすると、より楽しく活動を行えます。
コツをつかんだら、いろいろな場面で行えるので、ぜひ挑戦してみてください。

【矢印ゲーム】

このゲームでは、指さした方向に対応した動きを瞬時に行うことで、「反射神経」や「判断力」を高めることができます。

【やり方】

- ① 指の方向に合わせた動きを考えます。
例：↑…ジャンプ ↓…しゃがむ
→…右に体を向ける。
←…左に体を向ける。

- ② 「指をさす人」と「動く人」に分かれます。
- ③ 「動く人」は、立った状態で素早く足踏みをし、「指をさす人」の指の方向に合わせて、素早く体を動かします。

※この活動は、体をたくさん動かすため、活動前のストレッチを推奨します。また、足場が悪いところや狭い場所で行うと、けがをする可能性がありますので、十分に注意して行ってください。



佐々木正美（児童精神科医）という方が書かれた書籍『子どもの心の育て方』（河出書房新社）の内容がとても良かったので、紹介します。

子供たちへの温かいまなざしが感じられる本です。

※ □ 内引用部分

～ほめ方、ごほうびについて～

- ・「うまくいったときにほめすぎるのもよくありません。なぜかという、「ほめすぎ」というのは、失敗したときは親がどんなに失望するのか、を教えているようなものだからです。」
- ・「金銭でほしがるものを買って与えることは節度が大切です。物で心を満たそうとする育児は、かえって欲求不満の感情をエスカレートさせることがあるのです。」

子供の自尊心を傷付けないように発達段階に合った視点でほめることの必要性はよく言われていますが、この本でも「さりげなく」ほめることの大切さを示していると思います。ごほうびは、「モノ」ではなく、「おうちの人と一緒に遊ぶ時間がもらえる」などの「コト」をごほうびにするといいと思います。

～叱り方について～

- ・（叱るときには、）「すぐに忘れられるような叱り方をするのがいいのです。」
- ・（性別に関係なく、）「父性というのは、社会的なルール、善悪などを教え、人生のあり方や生き方の理想価値観を教えるものです。そして、母性は無条件に子供を許容し、安らぎと絶対的な安心を与えるものです。」
- ・「父性的な部分、つまり「社会のルール」というものは、じゅうぶんに母性的なものを与えられたあとから与えられるべきものです。その土台がないと、「遊びのルール」「社会の決まり」といった規範を「なるほど」と受け入れることができません。」

ルールを伝えて注意してもなかなか受け入れられないお子さんもいると思います。状況を理解する力なども関係していると思いますが、この本で紹介されている視点も気に留めてみてでもいいかもしれません。

～子どもとの接し方について～

- ・「自分の意志と選択でものごとを決定できるように、上手に援助されて育った子供は、自分の住む世界、あるいは自分自身に対してよい感覚、善の感覚をもちます。」
- ・人に対する信頼感と自分に対する誇りや自信といった感性は、乳幼児期に育むことができなかった場合でも、「人間というのは何歳になってからでも、必要なものはやり直しも学習もできると思います。学童期や思春期、あるいはそれ以降にやり直しをしなければならないとしたら、迷わずにそうすることが大切です。」

自宅で過ごす時間が多いこの時期は、お子さんとじっくり関わるチャンスかもしれません。教育に携わる立場として、「人間というのは何歳になってからでも、必要なものはやり直しも学習もできる」という言葉に勇気付けられます。